



各高の開拓者たち ～活躍する各高卒業生～

第11号 平成30年 8月30日(木)



★★昭和52年度卒業生 伊藤伸久さん(明治大学卒)です。★★

◆伊藤伸久 (いとうのぶひさ) 1958 (昭和33) 年生まれ59歳

昭和52年度卒英語科4期生の伊藤伸久です。岐阜新聞・岐阜放送に昭和56年に入社し、アナウンサーとして27年勤務し、現在は株式会社岐阜新聞社で執行役員名古屋支社長兼営業部長として主に新聞広告業務を担当しています。地域密着の県域紙の岐阜新聞と県域放送の岐阜放送はグループ会社で相互間の異動があります。私の高校時代やアナウンサー、新聞記者、放送営業、新聞広告の経験談が今の現役の生徒の皆さんの今後に少しでも役に立てばと思います。

.....
..

昭和49年当時岐阜地区の高校進学は学校群制度が導入されており、岐阜学区が岐阜、岐阜北、加納、長良、岐山の5校の中の亀の子ペア設定の選択で、各務原市内の中学生の普通科高校への進路選択は岐阜学区の群を狙うか、地元の開校3年



の新設各務原高校かの選択でした。私自身は地元であることと当時英語科があったことから各務原高校を選択。無事4期生として入学しました。英語科の教室は校舎西端。隣の教室は女子2人男子38人の理数科に対して、英語科は男子8人女子32人という正反対の環境でした。毎日の自転車通学は自衛隊岐阜基地を挟んで各務原市の西北端の稲羽から東北端の学校までの片道およそ8キロ、45分の距離。一応3年間無欠席(ただし遅刻はおそらく年間最多記録保持者)。豪雨時に学校の西の直線田圃道が完全冠水し、腰までの深さを漕いで帰ったこともありました。授業は学校自体が市内初の新設普通科校で岐阜高校をモデル校にスタートして4年目だったことから、学校全体に勢いがあり、英語科も、文法、リーダー、外国人講師との英会話、英語の授業内容が充実しており、英検2級取得が必須でした。授業

自体楽しく学ぶことができたと思っています（※英語の若い女性の網野先生は憧れの的？）。残念だったのはプールが無くて水泳の授業が無かったこと、英語科は理科が選択制で物理の授業が受けられなかったこと、当時は硬式・軟式とも野球部が無かったこと

（当時各務原高校はレスリングとラグビーのイメージ強かった）、校庭の草取り、冬の校内マラソン大会などが印象に残っています。必修クラブ活動は高校入学前の昭和48年前後

が空前の落語ブームだったこともあり、同級生の友人と二人で落語同好会を立ち上げました。教職課程の伝手で岐阜大学落語研究会の大先輩に指導して頂きました。文化祭では教壇を高座に手作り寄席を実施。当時の芸名は周囲に木の無い田



圃の真ん中だったことから「木無亭田楽」。寄席文字を書く面白さを知ったのもこの時でした。

高校生活の中でヒント・転機となったのは国語の小森先生から勧められた児童文学雑誌

「コボたち」で民話・童話に興味を持ち、読み漁りました。また別の国語の岩田先生からは童話とは真逆の「開高健」を薦められ、こちらにも大きな衝撃を受けました。などあって大学進学は文学部日本文学を専攻に目標を定めました。そして将来設計は漠然とですが、人前で話すことができ、お金がもらえる職業は何かと考え、将来の目標を落語家、国語教師、そして小学校時代からの夢だったアナウンサーに設定。漠然と将来の人生進路図が出来上がりました。そのためには東京へ行かねばと目論見、親からは浪人無し、手付一時金無しの条件で関西、中部、関東の計11校を受験して6勝5敗。結局最後に残っていたのが明治大学でした（早稲田大学狙いだったのですが・・・）。当然のように入学前から決めていた落語研究会へ。明治大学落語研究会は東京六大学の中でも実践派で知られ、OBは故立川談志門下が多く（志の輔、談之助、談幸など）、他にも三宅裕二、コント赤信号（渡辺正行・小宮孝泰）などの芸人も多数輩出しており、支部長～幹事長を務めました。勉強は落語の影響もあって卒論は安楽庵作伝などの「近世文学」でした。明大文学部で最も厳しいと言われるゼミの教授が定年前の功德として卒論内容には目を瞑ってくれま



した。一方学生時代は寮生活。「和敬塾」という全国からの地方学生を受け入れる民間の寮で、目白台の田中角栄宅の隣の隣にあり、村上春樹が一時居たことでも知られ、真面目に4年間在寮しました。1・2年は相部屋、3・4年は個室。地方出身の六大学学生をはじめ関東の著名な大学の友人

がたくさんできました。学生時代はやはり出会いの場。様々な人との出会いは後の財産になっています。この寮は現在も存続しており、寮生募集中です（興味がある方は小生まで）。就職課程は、アルバイトと落語研究会活動に明け暮れて3年次にあっさりあきらめたことから、選択肢は嘶家かアナウンサーかの2択しかなく、まずは不安定な嘶家よりまず定職のアナウンサーになるために3年次から大学と並行してアナウンス学校に通い、全国の放送局を受けまくり、放送局ばかり11社受けて1勝10敗。スポーツアナウンサーを欲しがっていた地元の岐阜放送が拾ってくれました。就職は「運」が大きく左右します。例えばその年が目指す放送局のアナウンサー採用がある年なのかどうか、先輩に同じタイプがいるかどうか、スポーツアナウンサーが不足しているのかなど。また就職氷河期OR売り手市場とその年々の景気にも大きく左右されます。

アナウンサーは技術職人です。少々の個人の才能と個人の努力が必要不可欠です。発声練習、滑舌、声の体力、苦手な音の克服、読解力、読みのテクニック、データ収集・まとめ能力、豊富な知識、チャレンジ精神、明るさ、元気さ。そして得意分野を持つこと。これだけは誰にも負けないという勝負できる「武器」が必要です。どの分野でも構いません。その世界の「オタク」になってください（音楽、プロ野球、プロレス、将棋、囲碁、アイドル、アニメ等々マイナー、メジャー関係なく何でもOKです）。

テレビ・ラジオの実際のOAに関してはチーム戦です。より良い放送をするためにはチームがまとまらなければなりません。プロデューサー、アナウンサー、ディレクター、カメラマン、編集マン、音声、スイッチャー、タイムキーパー、技術、記者、営業担当など各ポジションメンバーがそれぞれの役割を完璧にこなし、互いをリスペクトしながら共通目標であるより良い放送をめざします。どの仕事も決して一人では成り立たないことを肝に銘じて下さい。

お陰様で27年間地域密着型の地方局のアナウンサーとして、報道記者、ニュース、選挙、スポーツ、バラエティーなどありとあらゆる仕事を経験させていただきました。地方局なので特にスポーツ中継は野球、サッカー、バレーボール、ラグビーなど高校スポーツがメインで、取材で得た監督や選手との出会いは大きな財産です。その一方で局のアナウンサー

はサラリーマンでもあり、違う部署への異動も有り得ます。様々な部署を経験して管理職を目指すのも有り、生涯アナウンサーを全うするのも良しなのです。自身一生涯アナウンサーのつもりでいたそんなある日、新聞記者へ突然の異動。50歳を過ぎての一大事。とはいえ取材して原稿書くことは放送も新聞も同じ。遊軍記者を経て、ひだ高山総局へ。飛騨3市1村が担当エリアです。北ア防災ヘリ墜落事故、乗鞍スカイライン熊立てこもり事件、高山市長選挙、殺人事件等々とても濃厚なひだ高山総局時代でした。そんな3年間の飛騨高山でしたが、飛騨の地元の人たちの暖かさ、厳しさ、心根の優しさに何度も救われました。その後放送の東京支社長を3年、現在は新聞の名古屋支社長を仰せつかっています。

【詳しい東京支社時代、名古屋支社時代の話のほか、正しい日本語講座、アナウンサー時代の経験談・失敗談=いっぱいあるのです(笑)=などはまた別の機会に】※定年後はやはりマイクの前でしゃべりたいと考えています。(さあもういっぺん！)

.....

在校生のみなさんに伝えたいこと。中学、高校、大学時代は興味をもったことにどんどんチャレンジしてみる事。いざやり始めたら諦めずに続ける事。「知識や経験は浅く広く」でも、一芸を究めるのも、どちらもOKです。いずれにしても知識や経験は人としての幅の広さを生み出します。どんな仕事に就いても必ず役に立ちます。貪欲に積極的にやれることは全てやるべきです。その中からきっとヒントや方向性が見つかります。何もしなければ見えてきません。そして行動することは人との出会いを生みます。十人十色百人百様、考え方も価値観もひとそれぞれ。色々な考え方や価値観がある事を知ることも大切です。決して正解は一つではありません。働き方改革の時代、年功序列、終身雇用の価値観も変化しています。ことば（日本語）と同じように揺れて～乱れて～変化します。今何が正しいのか、自分はどう考えるのか、きちんと見極める力＝「目利き力」を養ってください。ネット時代、ありとあらゆる情報が氾濫しています。この情報はいつ、だれが出したものなのか、本当に正しい情報なのか、鵜呑みにせず、疑ってかかるべきです。またSNSも含め自分自身が発信する情報についても責任を持たなければいけません。大人も子どもも関係ありません。ひとりの人間として生きていくための「目利き」の力を養ってください。

.....

結びに各務原（かかみ「が」＝濁音＝はら）市にある『各務原（かかみはら）高校』は決して『かかみ「が」＝濁音＝はら高校』ではありません。（※各務原西（かかみ「が」＝濁音＝はらにし）高校）OBとしての自信と誇りをもって母校を盛りあげていってください。

＝この場を借りて謝らなければいけないことがひとつ。岐阜放送入社当時OBなのに思い込みで一時期「かかみがはらこうこう」と濁音で紹介していたアナウンサーは私です。申し訳ありません。

以上「かかみはらこうこうOB」の伊藤伸久がお伝えしました。

略歴

岐阜県各務原市（かかみがはらし）大佐野町出身、
昭和46年3月各務原市立稲羽西小学校（旧敬格小学校）
昭和49年3月各務原市立各務原市立稲羽中学校
昭和52年3月岐阜県立各務原（かかみはら）高校英語科卒、
明治大学（文学部文学科日本文学専攻）昭和56年3月卒
（和敬塾北寮4年間）

（明治大学落語研究会幹事長9代目紫紺亭小迷治）
昭和56年4月岐阜新聞・岐阜放送入社アナウンサー
（以後27年報道制作局報道部アナウンサー勤務）

報道制作副局長、

ラジオ制作部長

ラジオセンター長

平成21年新聞記者（遊軍3ヶ月）～ひだ高山総局長3年、

平成24年放送営業・東京支社長3年

平成27年新聞広告・名古屋支社長3年目。

平成30年11月定年退職？いいよいよフリーアナウンサーか？。

.....